

平成 30 年度第 1 回神奈川県石油コンビナート等防災対策検討会 議事要旨
(平成 30 年 4 月 26 日)

議題 平成 30 年度取組計画

事務局から、資料 1、資料 1-1、資料 1-2 について説明。委員から意見を得た。

【委員意見等】

議題 平成 30 年度取組計画

1 平成 30 年度取組計画（資料 1）及び特定事業所の予防対策の促進について（資料 1-1）

2 平成 30 年度神奈川県石油コンビナート等防災本部訓練について（資料 1-2）

<説明>

事務局から、上記各資料について説明。

<各委員からの意見等>

（資料 1-1 について）

○委員

- ・敷地外への災害への対策については、コンビナート区域外への被害防止として位置付けるか、説明にもあったように訓練の中で位置づけるのかを整理したほうが良い。その他は了承する。

⇒（事務局）

これから分科会もあるので、そこで相談させてもらい意見をいただきながら、実施していきたいと考えている。分科会での意見も踏まえて、調査票での位置付けと具体的な実施内容について整理をさせていただきたい。

○委員

- ・資料では、ガス協への保安設備の地震・津波対策の委託が挙げられている一方、県として取組状況調査も行うとされている。この 2 つは重なる部分もあり、どのように整理したらよいか教えてほしい。

⇒（事務局）

県の考え方としては、取組状況調査の実施により得られた課題は、各事業所が参考にして進めていってほしいと考えている。その一方で特に共通的なものは、ガス協委託したいと考えている。

○委員

- ・現状かなり取組が進んでいるようなので、その流れを維持していただき、さらに深掘して行ってほしい。自主的取組や遮断弁の設置を詳細に調べれば役に立つと思われる。配管系の安全対策についてさらに取組を望む。

○委員

- ・調査は3年目で、他の都道府県と比べても先進的な取組で、事業者さんの理解も得られて、取組が進んでいると考えている。しいて言えば、最近、危険物屋外タンクの浮き屋根の事故が取りざたされており消防庁でも調査を行っているので、浮き屋根に関する防災対策の聞き取りも入れていただくとよいと思う。

○委員

- ・浮き屋根タンクについても、何回かちょこちょこ事故が起きる。果たして対応できているかと言われれば、なかなか難しいが、事故や故障については、程度に差があるので、そのあたりをどう表現していくか悩むところではある。そのフォローアップ状況をどのように考えるかが課題であると考えている。

○委員

- ・浮き屋根式タンクについては、調査するにしても、何が問題であり、どのようなことを調査する必要があるのかを見極めた上で、実施すべきと考える。

○委員

- ・着々と調査は進んでいるという感じを持っている。一方、気になるのは、地震対策とか、津波対策とか、結局リスクアセスメントに基づくものですが、一方で、私は超高層マンションの地震対策についての仕事をしており、非常用発電機器を地下に持っている例が多い。津波で浸水する恐れもあり、本当に大丈夫かという危機感はある。もし地震で地盤沈下してしまい、そこに津波が来たら耐えられるのかが心配である。

コンビナートにおいても、リスクアセスメントの結果だけを見ずに、柔軟な発想で行えないものかと思う。

一回リスクアセスメントをして、それでよいとするのではなく、新しい知識に基づきもう一回見直すことも必要と考えている。

○座長

調査をする上で、どの津波を想定するかについて、何千年レベルに来る地震と、もうすぐ来るよと言われていた南海トラフの地震とは想定が違う。少なくとも南海トラフ地震で想定して調査をしたら、ほぼすべての事業所がきちんと対応できていた。

その他の地震については、南海トラフの地震と違うところもあるだろうから、また別の機会にきちんと整理をしていきたい。

まずは、そういう状況を整理してそこまでは皆さんきちんとやられていますと、県としては安心材料としてきちんと共有していきたいと考えている。

消防施設についてはまだ対応できていないものもあるので、これから整理していきたい。

○委員

- ・着々と調査を進めているという感じである。今後とも取組んでいただきたい。

○座長

- ・参考資料について、緊急遮断弁の設置があるが、参考資料では62%が設置済みとなっている。ソフト的な対策も組み込むというお話もでていますが、数字の見せ方について、これは設置義務があるのものも入れた数字か。

⇒（事務局）

入れた数字である。

○委員

- ・義務のものと義務がないものをどう整理していくのか、ソフト的な体制もうまくできれば、対策としては有効であると考えているが、数字をどのように組み込んでいくかが課題と考える。しっかり100%できているところもあって、それ以外のところはどうかといった区別があまり必要ではないということか。

⇒（事務局）

参考資料4でしっかりと説明させていただいている。過去にもそういった議論があり、分けて標記をする形となっている。

○委員

- ・特に意見はない。防災訓練について後ほど発言させていただく。

○委員

- ・地震津波訓練については、苫小牧の事故や平成23年（東日本大震災）の津波などを踏まえて今の対策があると承知している。対策が遅れている事業所にどのようにしてやらせていくかが課題であると思う。

危機感を覚えているのは「浮き屋根の老朽化」である。耐震対策が進んでいるのに、破損事故が多いのは、浮き屋根自体の老朽化が原因。老朽化対策を入れてもらえればと考えている。

○委員

- ・大きい浮きふたを管理するというのはかなり大変。当事業所では修理や部品取替えを計画的に行っている。将来的にどのような方向で管理していくか、次の一手を考えているところである。

○委員

- ・破損事故があれば、応急措置をしてもらっているが、老朽化について重要視していただきたい。

○委員

・全部をちゃんと検査するというのはできないので、あるところで建て替えが必要。スペックを落としてでも、建て替え間隔を短くする方がいいように思う。

○座長

・一方で、京浜臨海部の活性化という問題があり、工業保安の観点のみであれば、それでよいかもしれないが、お金をかけたくないという事業所側の考えもあり、それを考えるのが行政の責任であると考える。

タンクに関しては、大事故につながることもあり、どこまでするかという議論をしていくべきと考えている。

○委員

・延命延命で伸ばしてきて、事故率も高く、基本的には建て替えなくていいのかという議論が必要である。

○委員

・新しい技術・制度はあがっていると思うが、川崎では毎年事故が増えている。事業所では配管などは優先順位をつけて対応をしているようだが、浮き屋根の維持管理対策の強化は、県の防災計画の柱の一つに掲げてほしいと考えている。

(資料1-2について)

○委員

昨年11月に臨海部の防災対策計画を策定したところであり、それに基づいた訓練を実施していく予定である。

○委員

津波や地震はよくわかるが、有毒ガスの漏えいなどについては広報が大切。警察や消防が広報をした方が早いと考えている。

○座長

毒性ガスなどは、屋内退避などについて市の計画にも盛り込んでおり、訓練の場でもう一度確認ができればと考えている。マスコミの方にも協力してもらおうつもりである。

○委員

マスコミの報道よりも、警察や消防の広報が効果があると考えている。実際訓練で検証できるか難しいとは思う。

○委員

可能であればぜひ見学したいと思う。想定して行う訓練は、地震に伴うものか、

それ以外の災害を想定しているのか。

○ 委員

最初から難しいものはできないので、まずは地震を想定した図上訓練で行うことを予定している。

○ 委員

危険物タンクのスロッシング被害予測システムの訓練の際、現在のシステムでは、実液面高さデータを手入力することになっているが、今年もそれをやってみてということか。

○ 座長

実際に訓練でいろいろと課題があるということが分かった。液面データをチェックしているのが現状であるが、どのタンクが一番危険なのかを、いち早く知ることが非常に大事であると考えている。

○ 委員

多くのタンクを有する事業所では、全タンクの液面データを手入力するには、相当の時間がかかると思う。どのタンクが一番危険なのかを、いち早く知るにはどうしたらよいか、少し工夫をする必要性があるのではないかと思う。

○ 委員

長周期地震動のレベルは震度で測れない場合がある。震度3程度でも長周期地震動のレベルが大きい場合がある、気象庁の長周期地震動階級などを参考にする手もあるかと思う。

○ 委員

今後どのような訓練をしていくのかを想定して、対応の詳細をつめていきたい。

○ 委員

被害状況によって対応が変わってくる。県がもつ情報なども根拠になるので、こういった様式で被害報告が集まっているか共有したい。

○ 委員

毎年津波を想定した訓練を地元と一緒にやっている。広報なども含め実施しているところである。

○ 座長

スロッシングの早期検知について、何かおこなっていることはあるか。

○ 委員

2016年熊本地震の際の大分の石油コンビナート地域におけるスロッシング被害の事例では、スロッシング高さが80cmを越えるとほとんどのタンクで液面計に異常または故障が発生するという傾向がみられた。液面計の異常・故障は、まず、大きなスロッシングが発生したかどうかを知る手掛かりになるのではないかと思う。そのようなものは、スロッシングの可能性のあるものとして、把握する必要がある。実際には夜間で余震もある場合もあるので、そんな点にも配慮してもらえればと考える。

(その他)

○ 委員

・9月1日に東亜石油の協力も得て、九都県市の防災訓練を開催する。

○ 座長

・防災本部、幹事会、検討会という仕組みに3年前に直した。幹事会が部長さんレベルのご出席なので、検討会は課長さんレベルで構成したい。

⇒調整後、要領等を改正し、正式にその形とする。

○委員

・持ち帰り検討してお知らせする。

— 以 上 —